

総合問題入試に期待する

横浜国立大学教育人間科学部助教授 根上生也（ねがみせいや）

教育が悪くなる元凶は大学入試，そして，それは文部省のせいだ．そう言う人がよくいる．しかし，それは本当だろうか？

生徒たちは受験テクニックだけを覚えて，本当の勉強をしない．受験生ならまだしも，進学しない生徒までがそういう勉強をさせられていることもあるらしい．その結果，生徒たちの知識は教科ごとに分断され，教科を越えた知識の関連性に興味を示す者は少ない．

はたして，こういう構図は文部省の企てによるものなのだろうか？

もしそうなら，教育の悪さを文部省のせいにするのは正しい．しかし，文部省のホームページなどを見れば，それが思い込みであることがわかる．

実は，文部省は，以前から，教科偏重を危惧して，入試の多様化を提言している．その多様化の1つとして，通常の教科別入試とは異なる「総合問題」を推奨しているのである．それは従来の教科にとらわれない問題や教科横断的な問題が出題される入試形態である．

例えば，私が所属している横浜国立大学教育人間科学部でも，教育学部改組のタイミングで入試に総合問題を取り入れた．特に，文理融合を謳う「マルチメディア文化課程」の総合問題は評判が高い．

例えば，平成11年度入試には，レオナルド・ダ・ヴィンチの「最後の晩餐」をモチーフに，いろいろな方向に思考を巡らす問題が出題された．キリストの額に透視図法の消失点があることの意味，等間隔に並ぶ壁掛けの見掛けの大きさや距離の関係，透視図法以外の遠近感の表現方法，浮世絵における遠近法の不具合など，知識に頼らずに，その場で考えれば解決できる事柄が問われている．

その具体的な内容を知りたいければ，いわゆる「赤本」を見るとよい．しかし，そこには問題は掲載さ

れているが，解答は省略されている．それはなぜなのか？ 受験生にかぎらず，受験業界にも教科の枠を越えて対応できる人材がいないからなのか．日頃から自分の思いを表現し，数理的にものを考える習慣があれば，決して難問ではないのに．

しかし，そういう習慣はセンター入試用の受験勉強をしているだけでは身につかないだろう．実際，マルチメディア文化課程の総合問題の得点分布はセンター入試との相関が低い．つまり，センター試験で満点が取れるのに，総合問題で0点の受験生がいるということである．もちろん，その逆もいる．

この現象はマルチメディア文化課程の総合問題固有のものかもしれないが，センター試験との独立性は，入試に総合問題を採用する上で重要なことである．センター試験で成績のよい者が高得点を取れる二次試験など，わざわざ手間を掛けてすることはない．

また，受験生を選別する力がないと入試問題として意味がない．他大学の総合問題は，与えられた資料をもとに，自分の意見を書くというスタイルが多く，採点の客観性や選別力を疑問視する声もある．しかし，マルチメディア文化課程の総合問題はその批判に耐えると自負している．実際，一つのテーマのもとに多数の問題を配置することで，正規分布に近い得点分布が実現しているからである．

いずれにせよ，このような総合問題入試が広まれば，教科偏重，知識偏重という入試の弊害が緩和されていくだろう．しかし，現状では，総合問題入試を行っている国公立大学は全体の15%前後にすぎない．この数を予想以上に多いと解釈することもできるが，総合問題入試は高校生や受験指導をする先生たちにはほとんど認知されていないようだ．

しかし，2003年から高校でも新指導要領が実施されて「総合的な学習の時間」が始まれば，多少は状況が変わるかもしれない．高校の先生が受験指導を

し、高校生が受験勉強をしたがるの当然。それならば、「総合的な学習の時間」に総合問題の受験指導をすればよいではないか。それによって、知識の総合化が図れるのなら、それはそれでよい。

とはいえ、「総合的な学習の時間」に対して批判的な人が多い。もちろん、情報、環境、福祉、健康といった今日的な課題に子供たちが目を向けることは歓迎すべきことであるが、それを学ぶことに時間を割かれて、基礎学力の低下につながると懸念するわけである。

これは、総合問題入試にも当てはまる。何かを必死に暗記したところで意味がないとなれば、学力に自信がない生徒たちは、総合問題に賭けようと思うだろう。そういう生徒がたくさん受験すれば、結果的に入学者の学力は下がる。しかし、大学生の学力低下は局所的な現象ではないし、それは従来の教育体制が生んだものであることを忘れてはいけない。

いずれにせよ、私はセンター入試の存在を「必要悪」だと考える。それは、大学生になるのなら、このくらいのことは知っていてほしいという指針になる。そもそも、センター入試で通常の基礎学力を確認していればこそ、安心して二次試験で総合問題を出題できるのである。したがって、私は総合問題の推進者ではあるが、センター試験まで総合問題的にするという考えには反対である。

このように考えてみると、いったい、教育が悪いのは、誰のせいなのだろうか？

私は、あえて他人のせいにせず、その答えを、私を含む大学教員全体としてみたい。というのも、総合問題にかぎらず、私たちが入試問題の質を変えてしまえば、それに対応して、高校以下の教育の状況も一変してしまうからだ。そういう実行力を持つ者が、教育に気を配らずに暢気に暮らしているとしたら、それは犯罪行為なのではないだろうか。

もちろん、高校生にとって魅力のある大学づくりを怠ると、どのような入試問題を作ったところで、空回りしてしまうことは言うまでもないのだが...